

包装食品分別機を開発

柱事業 月30~50台販売めざす に育成

カネミヤ、環境製食品事業に進出

【半田】半導体実装装置や工作機械の部品を手掛けるカネミヤ(本社半田市八軒町二二八、電話0569・233・2871、間瀬隆夫代表取締役)は、環境製食品事業に進出する。食品廃棄物の再資源化を図るのに役立つ包装食品自動分別処理機「Bun-Bun(ブーンブン)」(製品名)を開発、販売を開始した。同社初の自社ブランド製品で、スーパーやコンビニエンスストアが売れ残って廃棄処分する

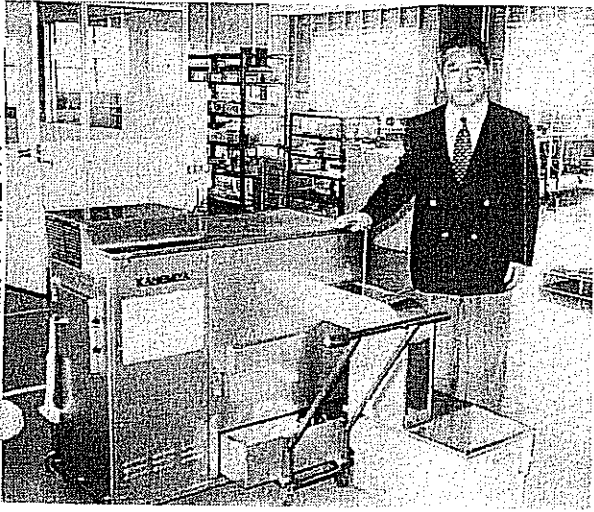
弁当やおにぎり、パンなどの食材とパック・袋を分別するのに適した機械。九六、七%という分別率の高さと高速処理、コンパクトで低価格なのが特徴。同社では環境製食品事業に育成する方針で、今九月初期の販売目標は月五十台、二、三年後には「月三十五十台の販売を目指す」(間瀬代表取締役)としている。

同社は、半導体実装装置と工作機械の部品を手掛ける、両部品とも大半を大手メーカーの富士機械製造に供給している。最近、IT不況や工作機械の受注減で売り上げが減少しており、既存のステンレス加工技術を活用して新規事業への参入を模索していた。そこでさまざまな事業を検討した結果、食品リサイクル法の施行に目を付け、同法に見据え、包装食品自動分別処理機の開発に乗り出した。

開発した分別処理機は、特殊な風力を起こし

メタン化など再資源化が図れ、廃棄処分量を大幅に減らすことができる。また、外形寸法二五九×五〇六×一〇六九mm、総重量二百kgと既存品と比べコンパクトサイズを実現し、スーパーのバックヤードなどの移動が容易なに加え、女性でも簡単に操作できる。価格は、コスト削減の徹底で既存品より五十万円以上安い百二十五万円に設定した。

同処理機はこのほど名古屋で行われた包装食品関連機械の一大展示会「2002中部パック」に出展したが、この際に大手スーパーから受注を確保し、今後の展開に手応えをつかんだ。廃棄物の最終処分場の残余容量が逼迫する中で、食品リサイクル法の下、製造・流通、外食などの食品関連事業者は食品廃棄物の再資源化が課題となっており、同社では「今後の販売に大いに期待している。パリエーションを増やしてシリーズ展開していきたい」(間瀬代表取締役)と意気込みを見せ



カネミヤが開発した包装食品自動分別処理機と間瀬代表取締役